

観光入込客数 4 千万人の目標よりも、「観光消費額単価のアップ」を目指そう！

■目標「観光入込客数 4,000 万人」からの離脱を

奈良県では観光振興の目標として「観光入込客数 4,000 万人」（延数）が以前から掲げられている。奈良県の「主な政策集」（2010 年 2 月）でも「2012 年迄に 4,000 万人」とされていたが、同年実績は 3,429 万人であった。1999 年以降の 14 年間で、平城遷都 1300 年祭を開催した 2010 年を除くと、3,600 万人の水準を一度も超えたことが無いのが現実だ。

「4,000 万人」の根拠・妥当性等はわからないが、観光振興の本来の目的を再確認し、異なる道を模索することも必要ではないだろうか。

■極端に低い奈良県の「日帰り観光消費額単価」

観光庁の「共通基準による観光入込客統計」によると、2012 年の奈良県の観光入込客^(*)数（実数：日本人・観光目的）は 18,700 千人回^(**)で、全国（40 都道府県）第 18 位の規模となっている。このうち日帰りが全体の 91.0%（県外居住者 11,210 千人、県内居住者 5,800 千人）を占める。

- *1：「観光入込客」は、統計上の用語で観光客とほぼ同義。
- *2：「人回」は観光入込客の 1 回の来訪を 1 人回と数える。

日帰りの観光消費額単価は、県外居住者が 4,732 円／人回（40 都道府県中 36 位：平均の約 6 割）、県内居住者が 1,555 円／人回（同最下位：同約 4 割）と全国より大きく見劣りする。また、奈良県の観光消費額 960 億円（2011 年は 1,040 億円）のうち、県民の消費額は全体の 15.3%〔40 都道府県：34.5%〕と少ない。

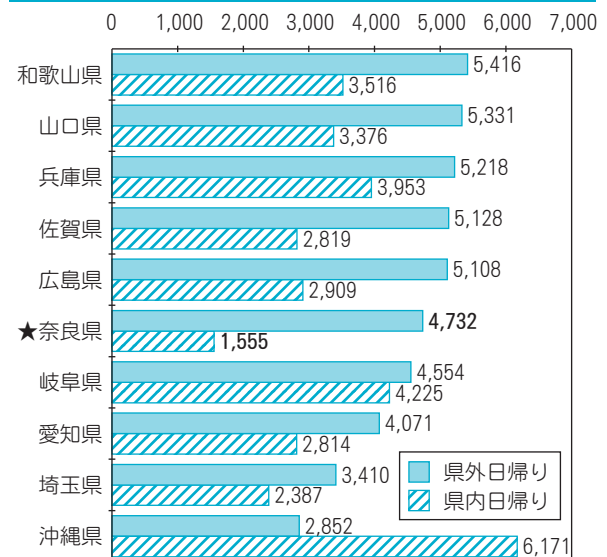
■「観光消費額単価のアップ」を目指そう！

観光消費額は「観光入込客数（実数）×観光消費額単価」に分解できる。当研究所の試算では、観光入込客数の 9 割を占める日帰りの単価を現行より 30%アップ〔県外居住者 1,420 円増、県内居住者 467 円増〕出来れば、観光消費額は 1.19 倍になる。

観光入込客数 4,000 万人は 2012 年実績 3,429 万人の 1.17 倍であるが、観光消費額単価の 30%アップで 1.17 倍の人員増とほぼ同じ効果を達成できる。同単価が低い原因（品揃え、店舗数、営業時間等）を把握し、その改善・解消を図る必要がある。

単価 30%アップの実現に向けた取組みを、産学官連携の優先課題にしてはどうか。（島田清彦）

居住地別・日帰りの観光消費額単価
〔2012年：日本人・観光目的、40都道府県の下位10県〕
【県外日帰り単価の降順】（円／人回）



資料：観光庁「共通基準による観光入込客統計」

* 滋賀県・京都府は集計中、大阪府は未導入。

奈良県の観光消費額単価等〔2012年：居住地別〕

〔日本人・観光目的〕	県内居住者		県外居住者	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
観光消費額単価(円/人回)	12,741	1,555	22,727	4,732
* 順位 (40 都道府県中)	36	40	31	36
* 40都道府県の平均単価(円)	20,173	4,208	29,278	7,655
* 奈良県と平均との乖離(円)	-7,432	-2,653	-6,551	-2,923
* 同乖離率(%)	-36.8	-63.0	-22.4	-38.2
観光入込客数(千人回)	446	5,803	1,242	11,209
* 順位 (40 都道府県中)	33	26	31	12
観光消費額(百万円)	5,683	9,022	28,225	53,039
* 順位 (40 都道府県中)	36	35	34	15

資料：観光庁「共通基準による観光入込客統計」

* 40 都道府県平均は、観光消費額の合計を 40 都道府県の観光入込客数の合計で除して算出している。